



みちのく水辺の楽校だよ

2018年4月号



この「里山地区」には、薪を採り炭焼きをしていた雑木林や、100年程前に植えられたスギ林があり、尾根には馬が荷を引いた里道、谷あいにはため池や棚田の跡も残っています。

みちのく公園ではこの「里山地区」を、釜房湖という仙台市の水源を涵養するかけがえのない森であると捉え、その健全化のための樹林管理を行うとともに、人と自然とのかわりが増えてきた里山の自然や文化を保全、継承し、今日に活かすことを目指しています。

4月22日(日) 晴れ 平成30年度 水辺の楽校 開講!

今年から新しい会員活動、「水辺の楽校」を開講しました。里山地区には谷戸があって、豊かな水辺があります。春にはリュウキンカが咲き、初夏には蛍の群舞を見ることができます。でも、少しずつ荒れてきて、外来種なども繁茂するようになってしまいました。この水辺を再生することを目指して、この活動を始めました!

水辺の生き物観察!

第1回「水辺の楽校」では、里山の水辺を知るために、3つの水辺を観察しました。

1つは「サンショウウオの池」、ここではカエルの卵がたくさん観察できました。残念ながらサンショウウオの卵は見つかりませんでした。代わりに、小野分校の水槽で見てください。

「リュウキンカの谷」では黄色い鮮やかなリュウキンカがたくさん咲いています。これほどの群落は大変、貴重なのですよ。

「リュウキンカの谷」の下流部に、前日からトラップをしかけておきました。いろいろな生き物がかかっていましたよ。

「リュウキンカの谷」のデッキや、「西の土場裏の田んぼあと」で、子供たちは直接、網を使って、泥をかきわけて生き物を採取して、観察しました。

何がいたかという、ゲンゴロウ、アカハライモリ、ニホンアマガエルなどなど。

サンショウウオの池

リュウキンカの谷

西の土場裏の田んぼあと



次回、第2回「水辺の楽校」は5月13日(日)、ピッキの水辺のお掃除をします。